

ミコル・サビア弁護士の発言からなにを読み解くか

名古屋学院大学 憲法学/平和学 飯島 滋明

1 はじめに

2017年10月下旬から11月上旬、イタリアの弁護士で、ナチスに抵抗した法律家たちが1946年10月にパリで設立した国際民主法律家協会 (IADL) ジュネーブ代表のミコル・サビア弁護士 (イタリア、以下「ミコル」という。) が来日した。私は沖縄、名古屋、東京とミコルの講演を聴き、一緒に行動することもあった。ミコルの講演は極めて有益であったが、そうした講演以外でも、ミコルの発言は極めて重要と思われるものが少なからず存在した。ここではミコルの発言の「番外編」、しかし重要な発言などを紹介したい。

2 沖縄集会にて

沖縄では、ミコルが来たことはとりわけ注目され、『沖縄タイムス』や『琉球新報』、そしてNHKなどでもミコルの発言は紹介された。

私にとって、ミコルの発言でとりわけ印象的だったのは、「米国の軍事基地は恐ろしいがんであり、あらゆる場所にたくさん転移している」(U.S.military Bases are a terrible cancer, with lot of Metastasis everywhere) との発言であった。

ミコルは「人権尊重」の視点から、殺人や強姦、基地騒音や表現の自由の弾圧、恣意的な身体拘束をもたらす米軍基地の存在を沖縄や名古屋、東京の集会で糾弾していた。

3 日本国憲法9条について

沖縄の集会では、憲法9条についても質問が出た。ミコルは、「憲法9条は日本国民のみならず、世界中の人々の平和にとっても重要」であり、日本国民には「憲法9条を守るだけではなく、輸出して欲しい」と回答していた。

憲法9条に関しては、中部国際空港から名古屋に向かう電車の中でも話題になった。ミコルはイタリア憲法11条との比較で、イタリア憲法11条の侵略戦争の禁止は「プログラム」(programmatic)に過ぎず、「戦力」を持たないことや「交戦権」を否認する2項がある日本国憲法9条とは異なると言っていた。そして、憲法9条1項だけではイタリア憲法11条と同じ「プログラム」に過ぎないと言っていた。

4 抗議集会について

ミコルは日本での抗議集会にも参加を希望していた。ここで具体的にどの集会に参加したかは書かないが、その集会に彼女はととても不満だった。「抗議集会」に参加している人数が少ない

ことへの不満だった。彼女は「日本人はトランプ大統領の来日に賛成しているのか」とも不満をこぼしていた。日本のメディアではあまり紹介されていないが、韓国では200箇所近くでトランプ大統領訪韓に反対する抗議集会があったことを知っていたかもしれなかった。なお、トランプ大統領訪日に対する抗議集会ではないが、11月3日に国会を囲み、4万人の抗議集会があったことを紹介したら、ミコルは満足していた。

5 「平和への権利宣言」について

2016年12月に国連総会で採択された「平和への権利宣言」について、ミコルが名古屋集会後の懇親会や11月6日夜の会合で話していたこともここで紹介したい。

2016年12月に採択された「平和への権利宣言」は、「サンチアゴ宣言」や「平和への権利諮問委員会案」とは異なり、多くの権利が削除されている。しかし、2016年12月の「平和への権利宣言」は「小さい赤ちゃん」(little baby) だが、この「小さい赤ちゃん」を育てて「大きな人間」(big man) にする必要があると力説していた。

なお、「平和」についても、ミコルは「平和とは戦争のない状態というだけではなく、貧困のない状態」であるとし、1日に約2万5千人の子どもが「餓死」する国際社会の現状を憂いていた。

6 思いやり予算について

名古屋の集会 (2017年11月2日) では、ミコルの集会がどのような意味を持つかを参加者に認識していただくという目的も兼ねて、私が日本の地位協定の現状を報告した。後日、ミコルから私の報告の件についてコメントを頂いた。私は、パワーポイントで「佐世保」「岩国」「三沢基地」周辺の思いやり予算の現状を写真で紹介したが、三沢基地周辺にあり、「思いやり予算」で建てられた「教会」が「政教分離」(憲法20条、89条) 違反との指摘に関心を持ったと言っていた。

7 おわりに

ミコルが来日した目的の一つ、それはイタリアの米軍基地の現状を日本の市民に伝えることにあった。沖縄、名古屋、東京でミコルの集会に参加した市民も、イタリアの地位協定の現状を知ることが期待していたと思われる。多くの市民にとっては、日米の地位協定とは異なり、イタリアの地位協定はアメリカ優位の規定になっていないという先入観があったと思われる。ところがイタリアの地位協定がイタリア国民には秘密にされているなどという驚愕の事実を知るに及び、イタリアの地位協定にも日本の地位協定の問題と共通する、「米国に対する隷属」という共通項があることを正確に認識することになった。

地位協定については別項で紹介されると思われるが、イタリアの地位協定以外にも、ミコルは重要な指摘をしていた。ミコルのこうした指摘をどう受け止め、なにを読み解くかは、私たちに課された課題であるように思われる。